

国会報告

出版報告

■集団的自衛権

ついに集団的自衛権の行使に向けて憲法解釈の変更が行われました。戦後70年にわたって積み上げて来た平和の礎を一夜にして変更したこととなります。いかに言葉の上で制約をつけたとしても、その本質は「自国」への攻撃がないにもかかわらず、「他国」への攻撃に共同して反撃することを意味します。であるならば何故正面から憲法改正を国民に問わないのか、一体誰がどのような形で歯止めをかけるのか。いよいよ関連法案の国会審議が最後の砦となります。心して対峙します。



■行財政改革

党行財政改革調査会事務局長として、野党6党からなる行政改革・財政健全化のための共同立法案を国会に提出いたしました。なかなか足並みのそろわない野党ですが、これからの一致点を見出し、議論を重ねて、更なる野党連携につなげたいと思います。

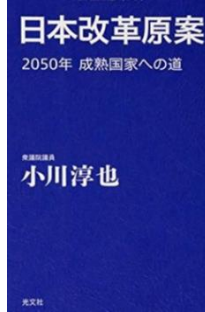


6月11日 野党6党の共同法案を衆議院に提出

■日本改革原案

私なりの日本の長期構想、国家ビジョンを一冊の本にまとめ5月16日に光文社より出版させていただきました。若手後援会の皆さんを中心に3年の歳月をかけて産み出した結晶です。印税収入も原則辞退し、世に問います。

最近言われ始めた、人口減少、超高齢化社会、エネルギー環境制約、これらに焦点を当て、いかに今後を生き抜くか。目標年限は、高齢化率が40%の上限に到達する2050年。目指すは世界最先端の「成熟国家」。シビアな現実を直視し、具体策に踏み込む。現職の政治家としては、異例の、初めての挑戦だと思えます。これは同時に国民の力を信じ抜く闘いでもあります。どうかお手を取っていただき、この国の未来、社会の将来をとまらぬようにお考えください。どうかよろしくお願い申し上げます。



■メディア等での紹介



6月2日 TBSニュースパード「国会トークフロントライン」

7月14日 東大生協「ほん」第387号にて紹介いただきました。

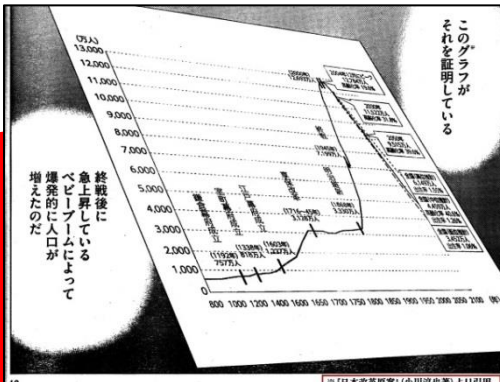


「ほん」に掲載された記事の抜粋です。本書は、日本の未来をどう描くかという問いに、具体的な政策を提示しています。読者の多くは、本書が示す方向性に賛同しているようです。

週刊モーニング(7月3日号)に連載中の「インベスターZ」にて「日本改革原案」のグラフを引用していただきました。



「インベスターZ」作者 三田紀房 代表作はTVドラマ化もされた「ドラゴン桜」。



※「日本改革原案」(小川淳也著)より引用
これは一貫して増え続けている人口が、2050年以降は激減する。これは、日本が直面している深刻な課題である。

5月16日 日本経済新聞

記者手帳

社会保障給付費を2割圧縮し、消費税は税率を最大25%まで引き上げ。衆参同日選挙を3年に1度の慣例にする。民主主義の小川淳也元総務政務官が16日に出版する「日本改革原案」の記述だ。党方針とかけ離れた無謀にみえる中身だが「反発覚悟の問題提起」と意気込む。小川氏は総務官傑出で、前原誠司元代表を支持する「凌駕会」に所属する。だが、今回の

無謀な改革案への期待

執筆で相談したのは細野豪志前幹事長の側近、階猛氏だ。みんなの党の山内康一国会対策委員長からも「この表現は見直すべきだ」と細かく助言してもらった。「日本改革原案」は、野党若手のネットワークから生まれた、いわば共同作品だ。知名度の低さから本の売れ行きは期待できそうもない。周囲は「前原さんと共著にすれば売れるのに」とかうかがうが、小川氏は「将来の再編の核となる政策として投げかけた」と意に介していない。(隆)



7月5日号 かがわ経済レポート

地方の良き教育現場など、学生に直に、身近な場所、読者に届くことが必要です。出来れば、その人達にまっすぐに参画してもらおうと、都立大を卒業した経験も地元で活躍する必要性を生み出しています。地方で一番不足するのは、まちづくりの力となる人材、そして専門的な知識を持ったリーダーです。この国を愛する若手、中堅のリーダーを育て、その知識と経験を、地方の活性化に役立てたいと思います。